

氏名	岡 哲 秀
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1591 号
学位授与の日付	昭和60年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	Schizophyllan と NK-421 の抗腫瘍, 延命効果と細胞性免疫能 増強効果
論文審査委員	教授 寺本 滋 教授 木村郁郎 教授 長島秀夫

学位論文内容の要旨

MH-134 担癌 C 3 H/He マウスに SPG, NK-421 を投与し至適投与量を検討した。SPG では、単独で至適投与開始時期を、また MMC と併用した場合の至適投与タイミングを 検討した。併用時の MMC の至適投与量も併せて検討した。さらに腫瘍切除手術後に、SPG, MMC の併用治療実験を行なった。一方、SPG, NK-421 単独投与、MMC との併用投与を行なった場合の、マウス脾細胞の ADCC 活性、NK 活性に及ぼす効果を検討した。SPG では背部皮下、腹腔内投与とも、10mg/kg が至適投与量と思われ、かつ早期投与開始に優れた延命効果を認めた。MMC との併用では、腫瘍移植 3 日目に 1 mg/kg の MMC を投与し、その 2 日後より SPG 10mg/kg を投与開始するとき、最高の延命が認められ、各々の単独投与に優った。NK-421 では、十分な延命効果を認めなかったが、投与群に少数の長期生存例があった。一方、ADCC 活性は、SPG 10mg/kg, NK-421 5 mg/kg 投与で活性増強を認め、MMC 単独投与で低下した。SPG+MMC 投与では、non adherent 細胞分画主体の活性増強を認めた。NK-421 投与での活性増強は、non T 細胞が主体と思われた。NK 活性では、SPG, NK-421 とともに、担癌により低下した活性を、正常レベルまで回復させるのを認めたが、MMC 投与では、上昇がなく、SPG を併用しても同様であった。

論文審査の結果の要旨

本研究は悪性腫瘍に対する免疫賦活剤の効果に関する実験的研究であるが、Schizophyllan 及び NK-421 の抗腫瘍、延命効果と細胞性免疫能増強効果について検討した

結果、重要な知見を得たものであって、価値ある業績であると認める。
よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。